

4. 有料着席列車の利用状況の分析

少子高齢化の進展等の社会状況の変化やライフスタイルが多様化する中、都市鉄道における質的サービス向上のためにも利用者の質的ニーズを把握することが重要である。

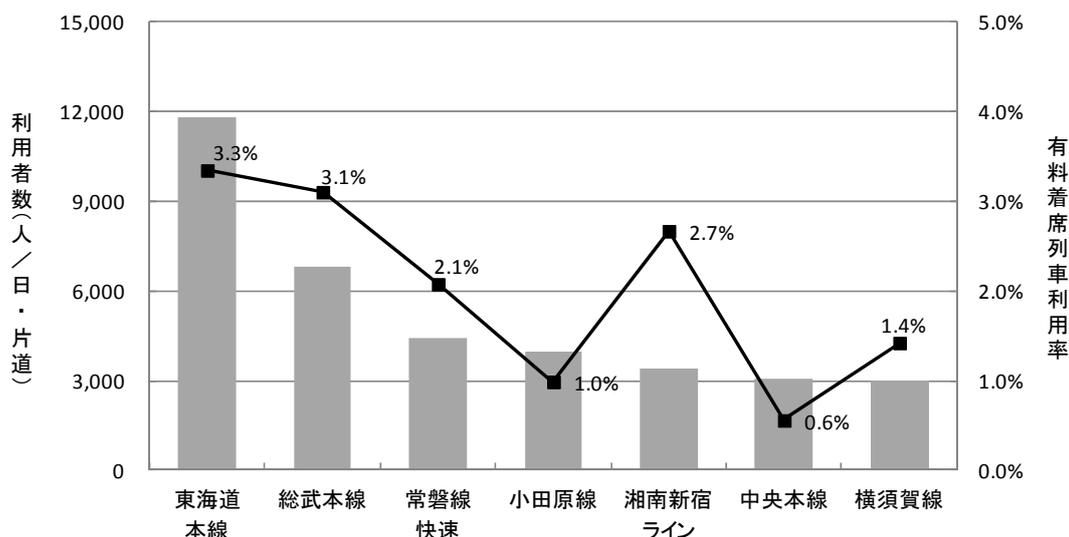
近年の鉄道利用時の着席ニーズの高まりから、有料着席列車の運行により着席サービスが提供されるようになってきており、このような鉄道利用者の着席ニーズを把握することは都市鉄道の質的サービス向上の観点から重要である。

本節では、大都市交通センサス「鉄道定期券・普通券等利用者調査」をもとに、通勤時間帯の有料着席列車（新幹線を除く、乗車券以外に特急券・着席券等が必要な列車）の利用状況を分析した。

4-1 通勤時における有料着席列車の利用状況

通勤時における有料列車利用者数および利用率を以下に示す（図V-4-1）。

- ・有料着席列車の利用者数の上位路線をみると、有料着席列車の運行本数が多い東海道本線の利用者数が最も多くなっており、総武本線、常磐線快速が続いている（表V-4-1 参照）。
- ・有料列車の利用率は、東海道本線、総武本線、湘南新宿ラインで約3%となっている。



注1)「鉄道定期券・普通券等利用者調査」より集計。

注2)路線別利用者数が5,000人/日・片道以上かつ有料列車利用者数が3,000人/日・片道以上の路線を対象としている。

図V-4-1 有料列車利用者数の上位路線（通勤・定期券利用者、首都圏全体）

表V-4-1 最混雑時間帯（ピーク1時間）における有料着席列車サービス状況

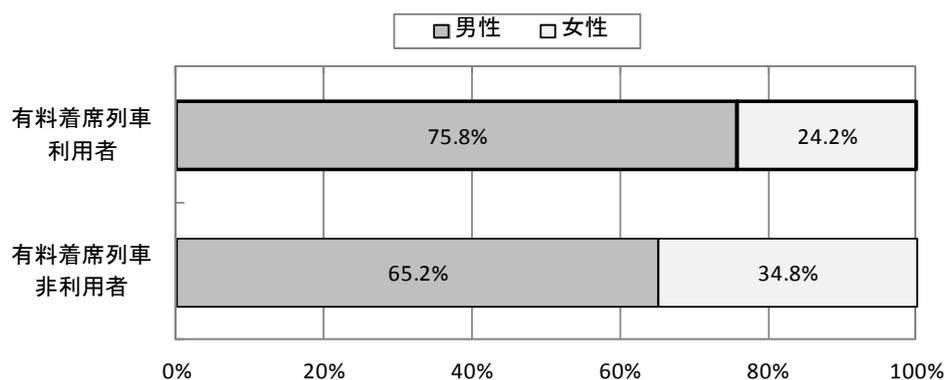
路線名	最混雑時間帯における 有料着席列車サービス状況		有料着席列車種別
	本数 ^{注)}	座席数	
東海道線	23	7,020	グリーン車、湘南ライナー
総武本線	19	3,420	グリーン車
常磐線快速・中電	12	3,100	フレッシュひたち、グリーン車
小田急小田原線	0	0	最混雑時間帯の前後でロマンスカーを運転(7時台:2本、9時台:3本)
湘南新宿ライン	6	2,880	グリーン車、おはよう新宿ライナー
中央線	2	1,300	青梅ライナー、中央ライナー
横須賀線	9	1,620	グリーン車

注)本数にはグリーン車連結列車を含む(平成22年10月時点)。

4-2 属性別にみた有料列車利用状況

通勤時における有料着席列車利用者の性別構成および性別・年齢階層別にみた有料着席列車利用率を以下に示す（図V-4-2～図V-4-3）。

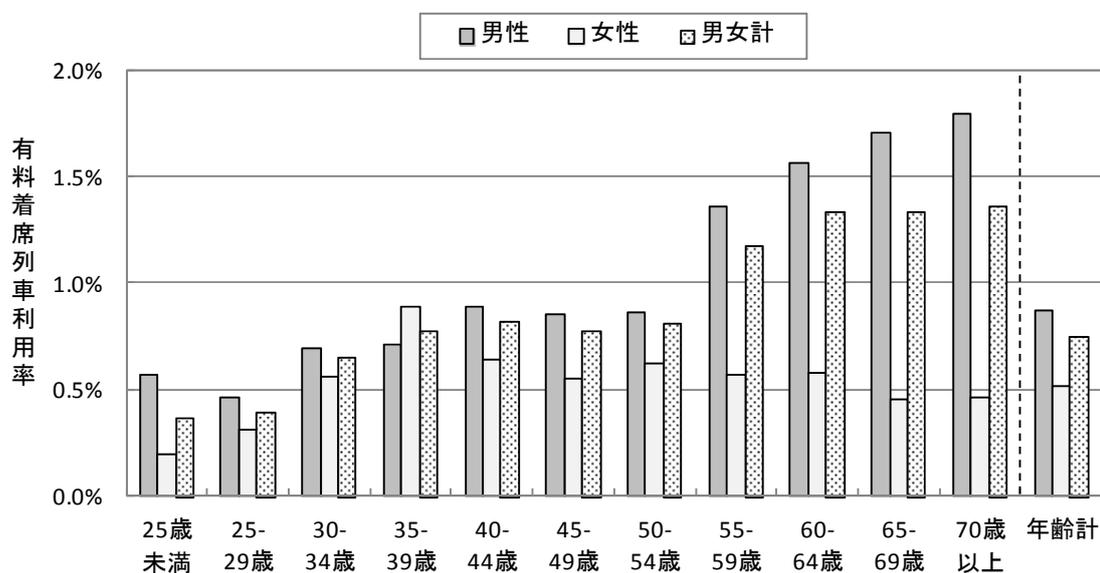
- ・有料着席列車利用者は、男性が76%、女性が24%となっており、有料着席列車の非利用者と比較すると、男性の利用割合が高いことがわかる。
- ・性別・年齢階層別の有料着席列車の利用率をみると、男性は高齢ほど利用率が高く、特に55歳以上でその傾向が顕著である。
- ・一方、女性の35歳以上では、高齢ほど利用率が低下する傾向がみられる。



注1)「鉄道定期券・普通券等利用者調査」より集計。

注2)性別不明を除く。

図V-4-2 有料列車利用者の性別構成(通勤・定期券利用者、首都圏全体)



注1)「鉄道定期券・普通券等利用者調査」より集計

注2)性別不明または年齢不明を除く。

図V-4-3 性別・年齢階層別有料列車利用率(通勤・定期券利用者、首都圏全体)